



特性和映像

きょうようときょういくのままに ⑳

東京学芸大学名誉教授 篠原文陽児

突然ですが、ひまわりを漢字で書くと?…そう、向日葵。日に向かう葵、梅雨の時期から夏にかけて花を咲かせる植物の意。英名はサンフラワー。文字通り、花と上部の茎が、太陽に正対し、太陽の動きにつれて回る**特性**がある。しかし、今年の梅雨どき6月、7月、この**特性**と**和**しこれを引き出す太陽が、過去に例を見ないほどの長雨や曇り続きで、なかなか顔を出さない。ヒトならずとも、ひまわりも、右往左往。ただただ茎を伸ばし、じっと、太陽を待つじらしさ。**映像**、写真でお見せできれば、一発、ご理解いただけよう。とてももどかしい。

令和元年6月某日、木曜日。友人が担当する授業「デジタルビデオ制作」の最終日。和と洋が見事なまでに調和する緑豊かな大学キャンパス。その一角にある総合学習センター1階の1室に、午後3時、受講生20名が興味と関心によって6つのチームに分かれ制作した、映像作品のプレゼンテーションを参観するよう*いく*。

授業の概要は、大学のホームページで公開されている。多様な教育の文脈におけるデジタルビデオ制作の言語とテクニック、および厳選されたデジタルビデオ編集ソフトを用いた編集に焦点をあて、デジタルビデオ・テクノロジーを活用するための知識、スキル、テクニックを網羅する、とある。

授業形態は講義、3単位。ひとコマ70分、週1回3コマ続きで、10週完結の授業。講義とNHK見学を含む実習の、有機的な組み合わせが特色の一つである。加えて、受講生は、授業時間外にも、個人あるいはチームで、復習等学習や作品の制作を行っている。大学の単位習得の原則は、授業時間外に、授業時間の2倍の学習時間が求め

られているからである。

参観時の資料はA4判用紙1枚。作品の評価にかかる観点6項目が記述されている。つまり、(1)番組に独創的な新鮮な視点があるか、情報性や社会性があるか、(2)視聴者の共感や感動を生み出しているか、(3)番組を見て考えさせる点があるか、(4)構成やスタイルは分かりやすいか、(5)撮影と編集での演出の工夫があるか、(6)制作するビデオの長さは7分か(6分45秒~7分15秒か)である。

プレゼンテーションの持ち時間は、1チームあたり9分。概要説明1分、上映7分、質疑応答1分の内訳。授業もタフであれば、参観もタフさが要求される。6作品の表題は、チーム1からチーム6それぞれ、「セブテンて、何だろう」「CWeek奮闘記」「知らない世界」「農業プロジェクト」「武四郎」「バカ山」である。いずれも、この大学に独特の、学生の呼び名、授業枠、環境、関係者等、生活環境の中に話題を見出している力作揃い。プレゼンテーションを終えた受講生一人一人の表情には、タフな授業を成し遂げた満足感と充実感が確かに見てとれる。担当している友人も同じ。筆者も、である。

本誌の今年7月号で、鼎談「映像の力—新学習指導要領をふまえて—」が掲載されている。

伝え、見せる映像制作と活用では、映像が学習者の行動や思考の**特性**と**和**すとき、最大の効果があることは実証済み。自己啓発も期待できるという。

スマホをもってすれば、クロマキー映像さえ制作可能なデジタル技術の進展。そうした中、生身を置く環境への興味、関心と、知的好奇心および探究心が紡ぐ映像と学習者のアナログ的な相乗効果。今後も、いっそう、目を凝らし、耳を傾け続けたい。